

貝類

1 選定・評価方法の概要

貝類は、本土部においては 1998 年版で対象とされておらず、今回、初めて対象となった分類群である。対象とした範囲は、ほぼ環境省に準拠して、陸域と淡水域を含む陸水域に生息する種である。陸水域の一部として、いわゆる干潟にも生息する種も対象としたが、ハマグリなどの種は対象外とした。また、種小名の確定していない種 (sp. で表記したもの；未記載種や現時点で種レベルでの種名の確定が困難なもの) も対象とした。対象種は、これまでに東京都から分布記録が報告されている種か、東京都産の標本が存在するもののみとした。

貝類では、分布記録は比較的多いが、高度経済成長期以降のものを除き経時的な密度変化を示すデータはほとんど存在しないので、評価は定性的要件に基づいた。そのため、基本的に絶滅危惧ⅠA 類 (CR) と絶滅危惧ⅠB 類 (EN) の評価を区別しなかった。

対象とした年代は、明治期以降としたが、具体的には報告の増加する昭和初期 (およそ 1930 年代) 以降である。なお、目名は学術用語集に、科名・学名などはわずかに新しい見解で変更したが、環境省のレッドリスト (2007) に準拠した。

評価の対象としたものは、およそ陸産 100 種、淡水産 30 種、汽水・干潟産 20 種程度で、このうち 68 種を検討対象種とした。

2 選定・評価結果の概要

評価の結果、検討対象種 68 種全てが本レッドリスト掲載種に選定された。区部では、汽水・干潟産種では、干潟の消失などで多くの種が絶滅と判断され、他の生息場所でも選定された種数が多かった。一方、北多摩地域では、過去の文献と標本が極めて少なく、掲載種数はわずかとなった。また、淡水産種も近年の環境調査を含む文献・標本とも少なく、多くの種が高いランクとなった。

陸産貝類では、小面積でも人為改変が少ないと高い多様性を保っていることは経験的にも知られており、皇居・高尾山・御岳・日原鍾乳洞付近などがそのような地域と考えられる。淡水産貝類では、杉並区善福寺公園などでいくつかの種が確認されているが、良好に多数の種が残存している地域を確認することができなかった。汽水域では、多摩川河口や江戸川放水路のヨシ原やその前面の河口干潟でいくつかの種が生息している。

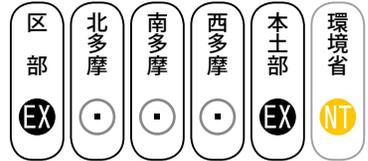
貝類でも外来種 (移入種) が着実に増加しており、移入のタイワンシジミによる土着のマシジミの激減も知られている。また、意図的な移入 (導入) も淡水産種で比較的多く、例えば皇居外濠のカラスガイも移入と考えられたので今回は評価の対象としていない。

(黒住 耐二)

ツボミガイ

Patelloida conulus

オキナエビス目
ユキノカサ科



【形態・生態】

殻長 6.7mm、殻幅 5.4mm、殻高 5.1mm 程度の笠形で、殻はやや薄質。側面はやや膨らむ。殻頂は後方へ寄る。殻表はほぼ平滑で、光沢がなく、種々の灰褐色の放射彩を持つ。内面周縁は暗褐色のまだらで、上部は青白色、中央は黄褐色。内湾潮間帯に生息するウミナナ類の殻表に付着するが、ウミナナ類との生態的關係は不明である。

【分布の概要】

北海道(南部)、本州、四国、九州

【都における生息環境】

他地域での情報から、埋立て以前の干潟潮間帯に生息するウミナナなどに付着していたと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京都本土部から絶滅したが、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重・小菅貞男, 1967; 黒住耐二, 2003.

(執筆: 黒住耐二)



ヤマキサゴ

Waldemaria japonica

オキナエビス目
ヤマキサゴ科



【形態・生態】

殻高 6.5mm、殻径 9.5mm 程度のソロバン玉形で、殻は厚質で堅固。体層が殻高の大部分を占め、丸い。臍孔はない。殻は紅褐色か淡黄褐色で、弱い光沢がある。殻表に、細かい成長肋もあるが、平滑。殻口は円形で、石灰質のフタが殻口を完全に塞ぐ。内唇滑層は明らかで、半透明白色。外唇は肥厚、反転し、白色。山地の小石の間などに生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の落葉下や礫地に生息する。

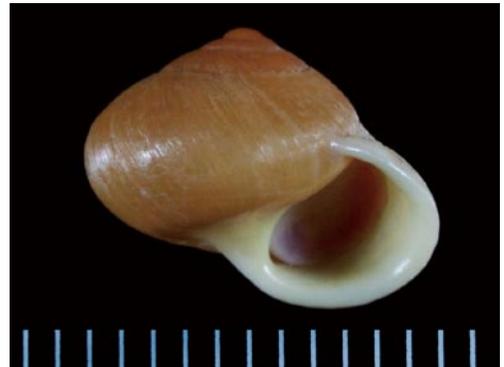
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



サドヤマトガイ

Japonia sadoensis

ニナ目
ヤマタニシ科



【形態・生態】

殻高 5mm、殻径 7mm 程度の円錐形、殻は薄質。体層が全体の 3/5 を占め、臍穴は広く開く。縫合は深い。体層の殻表に 2 列の針状毛を密に巡らし、成長脈も密で突出する。暗褐色。殻口縁は肥厚せず、円形。多旋型の薄い革質のフタを持つ。山地の樹林の林床などに生息する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない樹林の林床の落葉下や礫地に生息する。

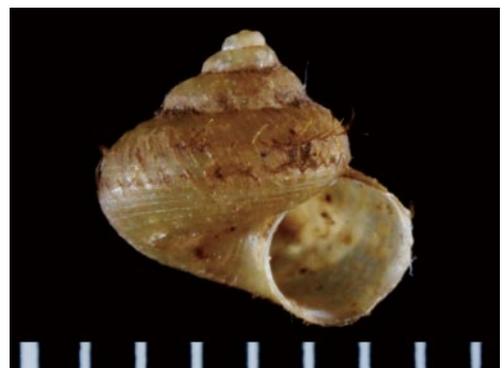
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

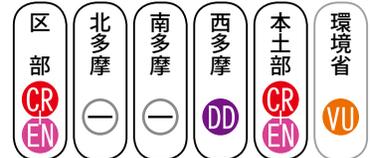
(執筆: 黒住耐二)



マルタニシ

Cipangopaludina chinensis

ニナ目
タニシ科



【形態・生態】

殻高 6cm、殻径 4.5cm 程度の卵円形、殻はやや薄質。体層が全体の 2/3 を占め、臍穴はわずかに開く。縫合は深い。殻頂は通常浸食される。殻皮はやや光沢のある緑黄褐色。体層はほぼ平滑。外唇は肥厚し、通常黒く縁取られる。殻口は卵形で、歯状突起を持たない。赤褐色で革質のフタを持つ。水田や用水路の泥底に生息する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地の水田などの淡水止水域の泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農薬散布や水田の減少と乾田化が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)



オオタニシ

Cipangopaludina japonica

ニナ目
タニシ科



【形態・生態】

殻高 6cm、殻径 4.5cm 程度の円錐形、殻はやや薄質。体層が全体の 2/3 を占め、臍穴はわずかに開く。殻頂は通常浸食されず尖る。螺塔側面観は直線的で、縫合はやや浅い。殻皮はやや光沢のある黒褐色。体層はほぼ平滑。外唇は通常肥厚せず、通常黒く縁取られない。流れのゆるやかな河川や池沼に生息する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

主に平地の湧水起源の池沼の止水域泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農薬散布や水質汚染、池沼の埋立てなどが減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

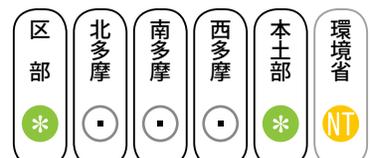
(執筆: 黒住耐二)



カワグチツボ

Iravadia elegatula

ニナ目
ワカウラツボ科



【形態・生態】

殻高 6mm、殻径 3.6mm 程度の紡錘形で、殻は薄質。殻皮は帯緑黄褐色だが、付着物や浸食により黒色に見える場合も多い。殻表には点刻列を持つ。縫合は深い。臍穴は狭く開く。外唇はわずかに肥厚する。淡水の影響がある内湾奥部や潟湖、河口汽水域の泥上に生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

内湾奥部の潮間帯下部から上部浅海帯の泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

干潟環境の保全が望ましい。埋立てや陸域からの汚染物質の干潟への流入などで個体数が減少する可能性が高く、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)

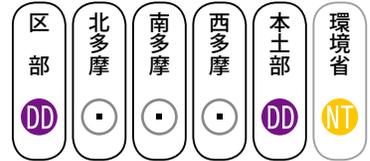


ムシヤドリカワザンショウ

Angustassiminea parasitologica

ニナ目

カワザンショウガイ科



【形態・生態】

殻高 3.7mm、殻径 2.5mm 程度の円錐形で、殻は厚質で堅固。体層周縁は丸い。縫合はやや浅い。若いものは、殻は光沢のある栗色で、縫合下に明瞭な黄白色帯を巡らす。殻表は平滑。臍穴は閉じる。ヨシの生育する河口汽水域に生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

内湾奥部の潮間帯のヨシ原に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

干潟環境の保全が望ましい。埋立てや陸域からの汚染物質の干潟への流入、ヨシ原の減少が減少の原因と考えられ、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)



ヨシダカワザンショウ

Angustassiminea yoshidayukioi

ニナ目

カワザンショウガイ科



【形態・生態】

殻高 3.2mm、殻径 2.2mm 程度の円錐形で、殻はやや薄質でやや堅固。体層周縁は丸い。縫合はやや深い。殻は光沢のある淡栗色。殻表は平滑。臍穴は狭く開き、その周囲は黄色帯を巡らすように見える。ヨシの生育する河口汽水域に生息する。

【分布の概要】

本州(東京湾以西)、四国、九州

【都における生息環境】

潮上帯のヨシ原に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

干潟環境の保全が望ましい。埋立て、ヨシ原の減少、干潟上部の乾燥化が減少の原因と考えられ、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)



ウミゴマツボ (エドガワミスゴマツボ)

Stenothyra edogawensis

ニナ目

ミスゴマツボ科



【形態・生態】

殻高 2.5mm、殻径 1.2mm 程度の卵円形で、小形、殻はやや厚質でやや堅固。通常、螺塔部は残存する。体層が殻高の 2/3 を占め、丸い。殻は緑黄褐色で、弱い光沢がある。殻表に、粗い点刻からなる螺状溝を持つ。内湾や河口の汽水域に生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

内湾奥部の潮間帯下部から上部浅海帯の泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

干潟環境の保全が望ましい。埋立てや陸域からの汚染物質の干潟への流入などで個体数が減少する可能性が高く、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

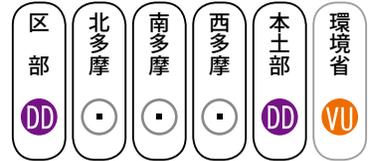
(執筆: 黒住耐二)



ミスゴマツボ

Stenothyra japonica

二ナ目
ミスゴマツボ科



【形態・生態】

殻高 5.0mm、殻径 2.9mm 程度の卵円形で、中形、殻はやや厚質でやや堅固。体層が殻高の 2/3 を占め、丸い。殻は緑黄褐色で、弱い光沢がある。殻表に、やや細かい点刻からなる螺旋溝を持つ。殻口は円形で、革質のフタが殻口を完全に塞ぐ。大潮時に潮が入り込む感潮域やこれに近いレベルの水路や池などに生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

河口汽水域最奥部の泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河口汽水域の保全が望ましい。埋立てや護岸建設などが減少の原因と考えられ、残存している河口汽水域の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

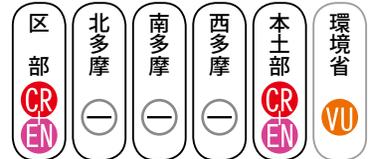
(執筆: 黒住耐二)



マメタニシ

Parafossarulus manchouricus japonicus

二ナ目
エゾマメタニシ科



【形態・生態】

殻高 13mm、殻径 7mm 程度の卵形、殻はやや薄質。体層が全体の 2/3 を占め、臍穴は裂け目状に開く。殻頂は通常浸食され、消失する。殻皮はやや光沢のある緑黄褐色。体層に 10 本程度の明瞭な螺旋を持つ。外唇は肥厚し、通常黒く縁取られる。殻口は卵形で、歯状突起を持たない。白色で石灰質のフタを持つ。湖やため池、水田や用水路、湿地などに生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地の止水域の水草・転石上に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農薬散布や水田の減少、乾田化が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

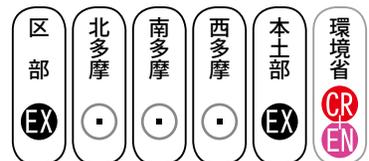
(執筆: 黒住耐二)



クロヘナタリ

Cerithidea largillierti

二ナ目
ヘナタリガイ科



【形態・生態】

殻高 30mm、殻径 10mm 程度の円筒形で、上方へ細くなり、成長しても殻頂部は磨滅するのみで、欠落しない。殻色は黒褐色から黄褐色まで変異し、種々の色帯を持つこともある。殻はやや薄質。各層には、20 本程度のやや弱い明瞭な縦肋を持ち、極めて弱い螺旋も有するが、平滑に見える。殻口外唇は肥厚せず、張り出さない。ヨシの生育する内湾奥部や河口の砂泥底に生息する。

【分布の概要】

東京湾(絶滅)、瀬戸内海、有明海

【都における生息環境】

他地域での情報から、汽水域のヨシ原の泥底に生息していたと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京湾から絶滅したが、残存している干潟環境、特にヨシ原の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

岡本正豊, 1995; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)

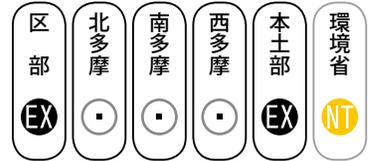


フトヘナタリ

Cerithidea rhizophorarum

二ナ目

ヘナタリガイ科



【形態・生態】

殻高 40mm、殻径 14mm 程度の円筒形で、上方へ細くなり、成長すると殻頂部が欠落する。殻色は白色から黒褐色まで変異し、細い色帯を持つことが多い。殻は厚質。各層には、20 本程度の縦肋を持ち、7 本程度の螺肋との交点は結節を形成し、殻表は布目状となる。殻口外唇は肥厚し、張り出す。内湾にある河口に生息する。

【分布の概要】

本州 (仙台湾以南)、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

他地域での情報から、ヨシ原の泥底に生息していたと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京都本土部から絶滅したが、残存している干潟環境、特にヨシ原の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒住耐二, 2003; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)

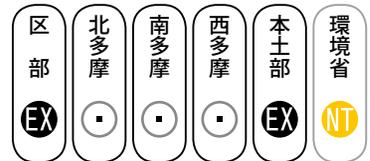


ヘナタリ

Cerithideopsis cingulata

二ナ目

ヘナタリガイ科



【形態・生態】

殻高 25mm、殻径 12mm 程度の塔形で、殻は厚質で堅固。螺層に 3 本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。縫合下の肋が他の 2 本より太い。通常肋間は狭く、黒色となる。殻色は、黄色の地に黒色の色線を巡らす。外唇下端は水管部へ伸びる。体層に縦張肋を持つ。淡水の影響する内湾干潟の砂泥底に生息する。

【分布の概要】

本州 (東京湾以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

他地域での情報から、内湾奥部の潮間帯の砂泥底に生息していたと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京都本土部から絶滅したが、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒住耐二, 2003; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)

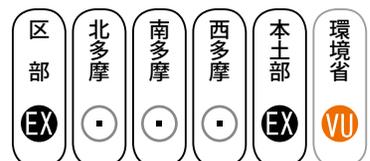


カワアイ

Cerithideopsis djadjariensis

二ナ目

ヘナタリガイ科



【形態・生態】

殻高 35mm、殻径 13mm 程度の塔形で、殻は厚質で堅固。螺層に 3 本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。3 本の肋は同程度の太さ。通常肋間は広く、彩色されない。殻色は、濃褐色の単色。外唇下端は水管部へ伸びない。体層に縦張肋を持たない。河川水が影響する内湾や河口の干潮時に露出する泥地や砂泥地に生息する。

【分布の概要】

本州 (東京湾以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

他地域での情報から、内湾奥部の潮間帯の砂泥底に生息していたと考えられる。

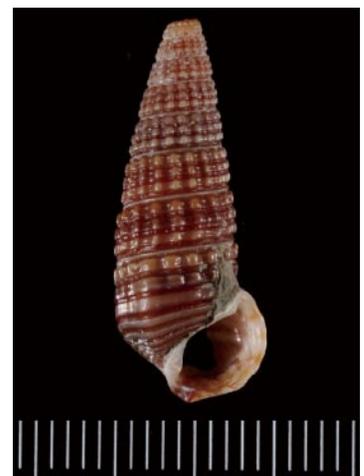
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京都本土部から絶滅したが、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒住耐二, 2003; 増田修・内山りゅう, 2004.

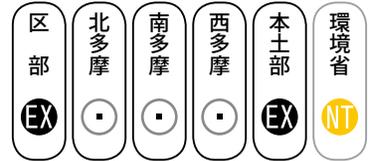
(執筆: 黒住耐二)



ウミナナ

Batillaria multiformis

二ナ目
ウミナナ科



【形態・生態】

殻高30mm、殻径13mm程度の塔形で、殻は厚質で堅固。螺層に数本の太い肋を持ち、肋間は狭い。結節は丸い。内唇の滑層瘤は強く発達する。外唇は湾入しない。体層に縦張肋を持つ。間接発生。内湾奥部の潮間帯の泥底に生息する。干潟産。近似種のホソウミナナは、内唇の滑層瘤は弱く発達せず、体層に縦張肋を持たず、直達発生を行う。河川水が影響する内湾や河口に生息する。

【分布の概要】

北海道(南部)、本州、四国、九州

【都における生息環境】

他地域での情報から、内湾の干潟潮間帯の砂泥底に生息していたと考えられる。

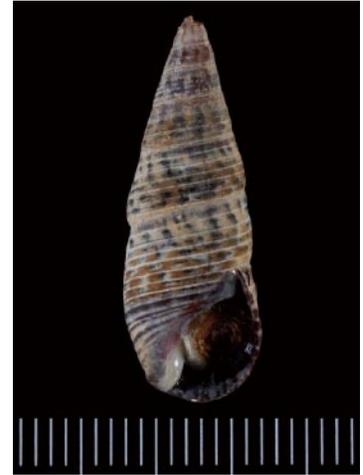
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京都本土部から絶滅したが、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒住耐二, 1995; 増田修・内山りゅう, 2004.

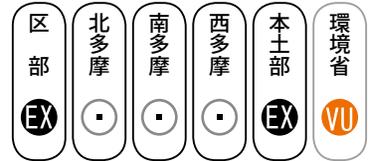
(執筆: 黒住耐二)



イボウミナナ

Batillaria zonalis

二ナ目
ウミナナ科



【形態・生態】

殻高30mm、殻径10mm程度の塔形で、殻は厚質で堅固。螺層に数本の細い肋を持ち、肋間は広い。結節は尖る。内唇の滑層瘤は弱くレール状。外唇は湾入する。体層に縦張肋を持たない。河川水が影響する内湾や河口で、ウミナナよりも低い潮位に生息する。

【分布の概要】

北海道(南部)、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

他地域での情報から、内湾奥部の潮間帯の砂泥底に生息していたと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京湾から絶滅したが、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒住耐二, 2003; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)



ケシガイ

Carychium pessimum

オカミミガイ目
ケシガイ科



【形態・生態】

殻高1.6mm、殻径0.6mm程度の塔形、殻はやや厚質。螺塔は高く、全体の2/3を占め、側面観は筒型。臍穴は閉じる。殻皮は光沢の弱い黄白色。殻表に微細な成長肋を持つ。外唇は肥厚し、内側に1本の弱い歯を持つ。内唇に1歯がある。殻内部の螺状板は弱く、単純。山地の樹林の林床に生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない樹林の林床の落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化が減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

東正雄, 1995; 狩野泰則・後藤好正, 1996.

(執筆: 黒住耐二)



モノアラガイ

Radix auricularia japonica

モノアラガイ目
モノアラガイ科



【形態・生態】

殻高 25mm、殻径 20mm 程度の卵形、殻は薄質。体層が全体の 4/5 を占め、螺層は小さく、臍穴は裂け目状。縫合は深い。殻表は平滑で、淡黄褐色の半透明。軸唇はねじれる。フタを持たない。池沼や水田、川の淀みなどの水草や礫に付着する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地の止水域の水草・転石上に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農業散布や水田の減少、乾田化が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。現在、極めて形態の類似した外来種が分布を拡大させており、両種の情報収集も必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

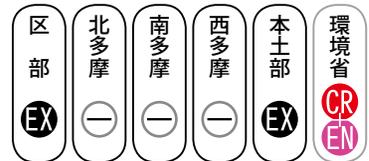
(執筆: 黒住耐二)



カワネジガイ

Camptoceras hirasei

モノアラガイ目
ヒラマキガイ科



【形態・生態】

殻高 10mm、殻径 2.4mm 程度の針状、殻は極めて薄質。螺層は巻とけ、上部と下部に角を持つ。淡黄白色で、光沢は鈍い。殻表は、やや規則的な成長肋があるものの平滑に見える。池沼や川でヨシ原や沈水植物群落があるところに生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地の止水域の水草上などに生息していた。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京都本土部から絶滅したが、残存している止水環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒住耐二, 2003; 増田修・内山りゅう, 2004.

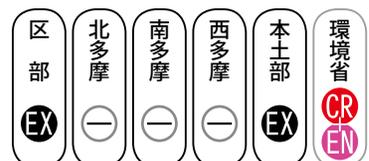
(執筆: 黒住耐二)



ヒダリマキモノアラガイ

Culmenella prashadi

モノアラガイ目
ヒラマキガイ科



【形態・生態】

殻高 6mm、殻径 3.4mm 程度の左巻、長卵形、殻は薄質。体層が殻のほとんどを占め、螺塔は小さく、臍穴は裂け目状。縫合は深い。殻表にはやや密で、肋間の大きく開いた明瞭な螺肋を持つ。濁黄白色。軸唇はねじれず、直線状。フタを持たない。池沼でヨシ原や沈水植物群落があるところに生息する。

【分布の概要】

本州

【都における生息環境】

平地の止水域の水草上などに生息していた。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京都本土部から絶滅したが、残存している止水環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒住耐二, 2003; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)



ヒラマキミズマイマイ

Gyraulus chinensis spirillus

モノアラガイ目
ヒラマキガイ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
CR EN	—	—	—	CR EN	DD

【形態・生態】

殻高 1.8mm、殻径 6mm 程度の円盤形、やや小型、殻は薄質。淡黄褐色で、弱い光沢がある。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の 1/2 程度。螺層は体層部でも広がらない。体層周縁に弱い角を持ち、殻皮突起は不明瞭。池沼、河川、水田などの水草や礫などに付着する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地の止水域の水草・転石上に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農薬散布や水田の減少、乾田化が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。極めて形態の類似した外来種が分布を拡大させている可能性も高く、両種の情報収集も必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゆう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)



ハブタエヒラマキ

Gyraulus illibatus

モノアラガイ目
ヒラマキガイ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
CR EN	—	—	—	CR EN	DD

【形態・生態】

殻高 1.2mm、殻径 4mm 程度の円盤形、やや小型、殻は薄質。黄褐色で、かなり弱い光沢がある。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の 1/2 程度。螺層は体層部で広がる。体層周縁に角を持たず、殻皮突起も不明瞭。池沼、河川、水田などの水草や礫などに付着する。

【分布の概要】

本州。その他の分布域は不明。

【都における生息環境】

平地の止水域の水草・転石上に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農薬散布や水田の減少、乾田化が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。極めて形態の類似した外来種が分布を拡大させている可能性も高く、両種の情報収集も必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 波部忠重, 1984.

(執筆: 黒住耐二)



ミズコハクガイ

Gyraulus soritai

モノアラガイ目
ヒラマキガイ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
—	—	CR EN	—	CR EN	VU

【形態・生態】

殻高 1.5mm、殻径 4mm 程度の円盤形、中型、殻は薄質。淡黄褐色で、弱い光沢がある。殻表には、微細な成長肋が明瞭。初期螺層の上面は窪まず、平巻き状で、下面は広く開き、殻径の 1/3 程度。螺層は体層部でも広がらない。体層周縁は丸く、殻皮突起を持たない。湿地や水田、休耕田などの水草の茎や葉裏に付着する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

低地部(解析谷)の止水域の水草上に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農薬散布・水田の減少、乾田化が減少の原因と考えられ、工事などに関しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

Habe, 1976; 増田修・内山りゆう, 2004

(執筆: 黒住耐二)



トウキョウヒラマキ

Gyraulus tokyoensis

モノアラガイ目
ヒラマキガイ科



【形態・生態】

殻高 1.9mm、殻径 7.5mm 程度の円盤形、やや大型、殻は薄質。淡黄褐色で、弱い光沢がある。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の 1/2 程度。螺層は体層部でも広がらない。体層周縁に強い角を持ち、殻皮突起は明瞭。池沼、河川、水田などの水草や礫などに付着する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地の止水域の水草・転石上に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農業散布や水田の減少、乾田化が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

上島励ら, 2000; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)



ヒラマキガイモドキ

Polypylis hemisphaerula

モノアラガイ目
ヒラマキガイ科



【形態・生態】

殻高 2.4mm、殻径 6mm 程度の円盤形、中型、殻は薄質だが堅固。淡黄褐色で、強い光沢がある。殻表は、ほぼ平滑。殻頂部はほぼ平巻で、僅かにくぼむ。底面は平坦で、角を持ち、臍孔は狭いが明瞭。殻口内部に歯状突起を持つ。池沼、河川、水田などの水草や礫などに付着する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地の止水域の水草・転石上に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。農業散布や水田の減少、乾田化が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

(執筆: 黒住耐二)



コウフオカモノアラガイ

Neosuccinea kofui

マイマイ目
オカモノアラガイ科



【形態・生態】

殻高 8mm、殻径 5.8mm 程度の垂菱形で、背面はやや膨らむ。殻は薄質。体層がほとんどを占め、螺塔は小さく、突出する。半透明淡黄褐色。殻形態の類似した別属のヒメオカモノアラガイとは、本種が生殖器に盲管を持つことでのみ識別されるという。河川敷などの水辺に生息する。

【分布の概要】

本州（関東、山梨）

【都における生息環境】

低地の河川敷のようなかく乱程度の大きな水辺環境に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境と河川敷水際環境の保全が望ましい。工事などに際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

Ueshima, R., 1995; 環境省自然保護局野生生物課 (編), 2010.

(執筆: 黒住耐二)



ナガオカモノアラガイ

Oxyloma hirasei

マイマイ目

オカモノアラガイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
NT	*	*	*	NT	NT

【形態・生態】

殻高 12mm、殻径 7mm 程度の長卵形、背腹に扁平、殻は著しく薄質。螺塔は極めて小さく、体層がほとんどを占める。半透明淡黄褐色。殻表はやや光沢があり、平滑。殻口縁は肥厚・反転しない。淡水産のモノアラガイ類に殻形態が近似するが、軸唇が肥厚せず、ねじれず、生体の眼は触角の先端にある。池沼や河川敷などの水辺に生息し、水際の草本類に付着する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生息環境】

低地の止水・流水両方の水際の草本に付着する。陸産種であるが、淡水産種と同時に得られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境と河川敷・池沼の水際環境の保全が望ましい。工事などに際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



スナガイ

Gastrocopta armigerella armigerella

マイマイ目

キバサナギガイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
—	—	*	—	*	NT

【形態・生態】

殻高 2.2mm、殻径 1.0mm 程度の蛹形、殻はやや薄質で堅固。臍穴はわずかに開く。体層周縁は丸い。縫合はやや深い。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢がある。半透明白色。外唇は肥厚する。殻口内に多くの歯を持つ。海岸や河川敷などに生息する。

【分布の概要】

北海道（南西島しょ）、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

主に海岸部や河川敷の草地などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

海岸部や河川敷などの草地環境の保全が望ましい。工事などに際しては十分な配慮が必要である。ただし、国内移入の場合もあるため、本種の情報収集も必要である。

【関連文献】

東正雄, 1995; 黒住耐二, 2003.

(執筆: 黒住耐二)



ナタネキバサナギガイ

Vertigo eogea eogea

マイマイ目

キバサナギガイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
—	—	VU	—	VU	VU

【形態・生態】

殻高 2.1mm、殻径 1.4mm 程度の卵形、殻はやや厚質。臍穴は開く。縫合はやや浅い。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢がある。半透明褐色。外唇は中央部にくびれを持ち、外側に明瞭な肥厚部がある。殻口内外唇下部の歯は強く、やや短い。池沼、水田などの湿地に生息する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

低地部のやや開けた止水環境の草地などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

人為的かく乱の少ない草地環境の保全が望ましい。工事などに関しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米・波部忠重, 1965; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



キバサナギガイ

Vertigo hirasei

マイマイ目
キバサナギガイ科



【形態・生態】

殻高 1.7mm、殻径 1.0mm 程度の蛹形、殻はやや薄質。臍穴は開く。縫合は深い。殻表はほぼ平滑で、弱い光沢がある。半透明褐色。外唇はほとんど肥厚せず、ほぼ直線的で、外側に肥厚部を持たない。殻口内外唇下部の歯は弱く、短い。溪流沿いなど開けた環境の礫地・草地などに生息する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

低地部（解析谷）のやや乾燥した草地などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

人為的かく乱の少ない草地環境の保全が望ましい。工事などに関しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

東正雄, 1995; 桑原康裕ら, 1997.

(執筆: 黒住耐二)



オオギセル ※備考 (p.625)

Megalophaedusa martensi

マイマイ目
キセルガイ科



【形態・生態】

殻高 40mm、殻径 9.5mm 程度の左巻、細長い塔型、殻は厚質。褐色で、個体により濃淡がある。殻口は卵円形、殻口縁は体層から遊離しない。上板は明らかで、下板は小さく斜めに奥部に続き、下軸板は時に殻口縁に現れる。腔壁は主壁と極めて短く、下部に連続した点状の壁からなる。山地の樹林の林床などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東西部から中国東部）、四国（東部）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の落葉下や礫地に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

湊宏, 1994; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



オクガタギセル

Mundiphaedusa dorcas

マイマイ目
キセルガイ科



【形態・生態】

殻高 27mm、殻径 6mm 程度の蛹形、殻は厚質で淡黄褐色の殻皮を持つ。螺塔部は太く、殻頂は丸みを帯びる。殻口は外側へ張り出さず、丸く、殻口縁は体層に付く。殻口の上板に刻みを持たず、下板はやや突出し、上板の半分の長さで、上板側は尖らない。下軸板は不明瞭で、殻口に出現しない。腔壁は主壁と右側面の点状の壁からなる。人為的かく乱の少ない樹林の倒木下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東から中部）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下、礫地に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

湊宏, 1994; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



オオトノサマガセル

Mundiphaedusa rex

マイマイ目
キセルガイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
○	○	○	NT	NT	NT

【形態・生態】

殻高 40mm、殻径 9.5mm 程度の左巻、細長い塔型、殻は厚質。濃い栗色で、強い光沢を持つ。巻数は多く、殻頂に向かって直線的に細まる。殻口は卵円形で、殻口縁は体層から遊離しない。上板は明らかで、斜め。下板は尖らず、僅かに全面から見れる位置にある。下軸板は殻口に表れない。腔壁は基本的には短い主壁と平行するやや長い複数の上腔壁からなる。人為的かく乱の少ない樹林の倒木下などに生息する。

【分布の概要】

本州（東京西部から静岡東部）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

湊宏, 1994; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



ツメギセル

Mundiphaedusa rhopalia

マイマイ目
キセルガイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
○	○	VU	○	VU	NT

【形態・生態】

殻高 20mm、殻径 4.3mm 程度の左巻、細長い紡錘形、殻は厚質、淡黄白色だが、殻皮は剥げやすい。巻数は多く、上部螺層は細まる。殻口は卵円形で、殻口縁は体層から遊離しない。上板は明らかで、斜め。下板は尖らず、奥まった位置にある。下軸板は殻口に表れない。腔壁は基本的には主壁と平行する短い上腔壁および長めの月状壁からなる。人為的かく乱の少ない樹林の倒木下などに生息する。

【分布の概要】

本州（東京から静岡）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木下や礫地に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

湊宏, 1994; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



ヤグラギセル

Mundiphaedusa yagurai

マイマイ目
キセルガイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
○	○	○	VU	VU	VU

【形態・生態】

殻高 12mm、殻径 3mm 程度の左巻、筒型、殻は厚質、紅褐色。巻数は少なく、殻頂は太く、円い。殻口は洋梨型で、殻口縁は体層から遊離しない。上板は明らかで、斜め。下板・下軸板は殻口奥部に位置し、前面からは見えにくい。腔壁は主壁と平行する短い上腔壁のみの場合がほとんどである。石灰岩地の樹林に生息する。

【分布の概要】

本州（東京から埼玉）

【都における生息環境】

人為的かく乱の少ない石灰岩地の落葉樹林の礫地や礫間の半地中に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境および石灰岩地の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

湊宏, 1994; 東正雄, 1995.

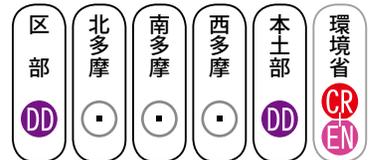
(執筆: 黒住耐二)



ヒロクチコギセル

Reinia variegata

マイマイ目
キセルガイ科



【形態・生態】

殻高 10mm、殻径 3.1mm 程度の左巻、筒型、殻はやや薄質、淡褐色の地色に黄白色の不規則な放射彩を持つ。巻数は少なく、側面観は少し膨らむ。殻口は円形で、周縁部は体層との付着部で途切れる。殻口縁は体層から遊離しない。上板は極めて弱く、下板・下軸板も奥部に位置し、前面からは見えにくい。全ての腔壁を欠く。樹上性。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生息環境】

沖積低地の近世期から改変の少ない屋敷林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

人為的な管理下にある屋敷林を保全することが望ましい。樹木の伐採などの乾燥化が減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。東京都本土部における本種は、近世期の国内移入の可能性もあり、新たな移入群にも注意を払う必要がある。

【関連文献】

東正雄, 1995; 上島励ら, 2000.

(執筆: 黒住耐二)



ヒラベッコウ

Bekkochlamys micrograpta

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 3.5mm、殻径 6.5mm 程度の円盤型で、螺塔は極めて低く、僅かに認められる程度。縫合は弱くくびれる。螺層数はやや少なく、体層に向かって緩やかに広がる。殻は薄質。明るい栗色。臍孔は狭いが明瞭に開き、その周囲は他所と同色。殻底には肉眼では観察できない微細な螺溝を密に持ち、上面にはほぼ螺溝を欠く。全体として平滑に見え、光沢がある。体層は平たく、周縁は丸い。底面は膨れない。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



カントウベッコウ

Bekkochlamys septentrionalis

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 9.5mm、殻径 15 mm 程度の円盤型で、螺塔は低いながら、明瞭。縫合は僅かにくぼむ。螺層数は少なく、体層では螺層は広がる。殻は薄質。淡緑黄色。臍孔は狭いが明瞭に開く。殻表には成長肋もほとんど認められず平滑で強い光沢がある。体層は高くなく、周縁は丸い。底面は弱く膨れる。生時には、黒褐色の外套膜で殻を包む。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（東西南部から中部東部）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

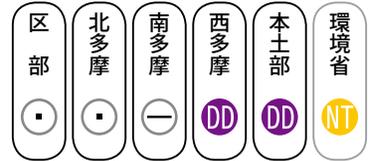
(執筆: 黒住耐二)



スカシベッコウ

Bekkochlamys serenus

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 3.3mm、殻径 7mm 程度の円盤型で、螺塔は低いながら、明瞭。縫合は弱くくびれるが、強く折れ込まない。螺層数はやや多く、体層でも螺層は広がらない。殻は薄質。淡黄褐色。臍孔は狭いが明瞭に開き、その周囲も僅かに淡くなるものの他所と同じ色彩で、白色とはならない。殻表には成長肋もほとんど認められず平滑で強い光沢がある。体層は高くなく、周縁は丸い。底面は弱く膨れる。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（東北から関東）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



ハコネヒメベッコウ

Japanochlamys hakonensis

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 4mm、殻径 6 mm 程度の円錐形で、螺塔はやや高い。螺層の膨らみは弱く、縫合はほとんどくぼまない。ほぼ直線的に殻頂に至る。螺層数は多く、体層でも螺層は広がらない。殻は薄質。淡栗色。臍孔は狭いが明瞭に開き、軸唇に覆われる。殻表には成長肋もほとんど認められず平滑で強い光沢がある。体層はやや高く、周縁に鈍いが明らかな角を持つ。底面は膨れる。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東から中部東部）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



ハクサンベッコウ

Nipponochlamys hakusanus

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 3.5mm、殻径 5mm 程度の円盤型で、螺塔は低いながら、明瞭。縫合はくびれ、やや強く折れ込む。螺層数はやや少なく、螺層は体層に向かって広がる。殻は薄質。明るい栗色。臍孔は狭いが開き、その周囲の色彩は他と変わらない。殻表には肉眼では観察できない程度の極めて細かく密な成長肋を持つが、平滑に見え、弱い光沢がある。体層は高く、周縁は丸い。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

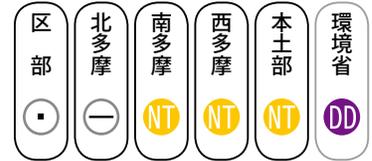
(執筆: 黒住耐二)



キヌツヤベッコウ

Nipponochlamys semisericata

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 3.5mm、殻径 5.2mm 程度のソロバン玉型で、螺塔は低いながら、明瞭。縫合は僅かにくびれる。螺層数はやや少なく、螺層は体層に向かって少し広がる。殻は薄質。濃い栗色。臍孔は開くが、軸唇に少し覆われる。殻表の成長肋は不明瞭で、全体的に絹状の弱い光沢がある。体層上面にやや密な弱いしわ状の盛り上がりがある。体層は高く、周縁に弱いながら、明らかな角があり、体層底面は良く膨らむ。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州（北部）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

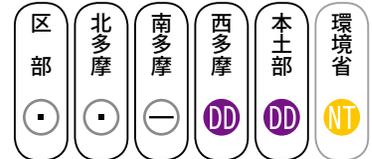
(執筆: 黒住耐二)



ヒゼンキビ

Parakaliella hizenensis

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 1.7mm、殻径 2.1mm 程度の低い円錐形、殻は薄質。螺塔はやや低く、殻頂に向かって直線的に細まる。各層のふくらみは弱く、縫合は浅い。螺層数はやや多い。体層周縁には角を持たず、丸い。臍孔は狭く開く。黄褐色、殻表状面には微細な彫刻を持つが、全体に平滑に見え、弱い光沢がある。体層底面は膨らむ。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島？

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

平瀬與一郎, 1908a; 環境省自然保護局野生生物課 (編), 2010.

(執筆: 黒住耐二)



ヒメハリマキビ

Parakaliella pagoduloides

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 1.8mm、殻径 1.5mm 程度の高い円錐形、殻は薄質。螺塔は高く、弧を描いて丸い殻頂に向かう。各層はややふくらみ、縫合はやや深い。螺層数はやや多い。体層周縁には極めて弱く鈍い角を持つが、全体としては丸く見える。臍孔は狭く開き、軸唇で覆われる。淡褐色、殻表状面には微細な彫刻を持つが、全体に平滑に見え、弱い光沢がある。体層底面は膨らむ。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

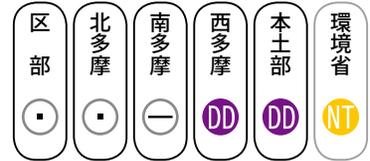
(執筆: 黒住耐二)



カサネシタラガイ

Sitalina insignis

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 1.7mm、殻径 2mm 程度の高いソロバン玉形、殻は薄質。螺塔は高く、各層は僅かに膨らみ、縫合はやや深くくぼむ。螺層数は少ない。体層周縁に明瞭で強い角を持つが、突出することはない。臍孔は閉じる。淡褐色、殻表上面には密で弱いしわ状彫刻を持つ以外は平滑で、光沢のない殻皮に覆われる。体層底面はほとんど膨らまない。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

平瀬與一郎, 1908b; 黒田徳米, 1963.



(執筆者: 黒住耐二)

ウメムラシタラガイ

Sitalina japonica

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 1.5mm、殻径 2.1mm 程度の低い円錐形、殻は薄質。体層周縁はやや強い角を持つ。縫合は浅い。淡黄褐色で、光沢はなく、殻表に数本の螺状肋を持つ。外唇は肥厚・反転しない。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.



(執筆者: 黒住耐二)

オオウエキビ

Trochochlamys fraterna

マイマイ目
ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 3.0mm、殻径 2.0mm 程度の蛹形、殻は薄質。螺塔は高く、各層はやや膨らみ、体層周縁にやや強い角を持つ。臍穴は開く。縫合は浅い。黄褐色で、やや光沢があり、殻表は平滑。外唇は肥厚、反転しない。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生息環境】

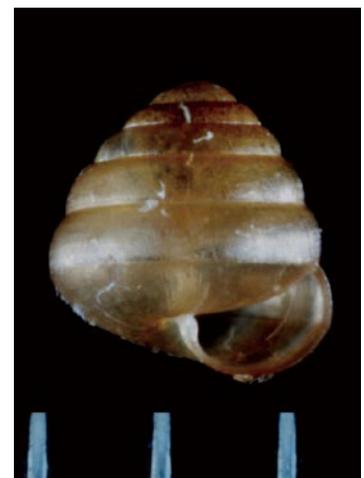
主に人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.



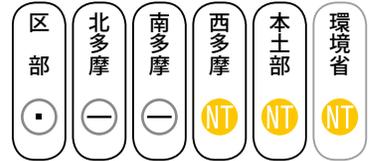
(執筆者: 黒住耐二)

タカキビ

Trochochlamys praealta

マイマイ目

ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 3.5mm、殻径 2.5mm 程度の高い円錐形、殻は薄質。体層周縁にわずかに角を持つ。縫合は浅い。淡黄褐色で、殻表はほぼ平滑で、光沢がある。外唇は肥厚・反転しない。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.



(執筆: 黒住耐二)

ヒメカサキビ

Trochochlamys subcrenulata

マイマイ目

ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 2.2mm、殻径 3.0mm 程度のソロバン玉形、殻は薄質。体層周縁に強く突出した角を持つ。臍穴は開く。縫合は浅い。栗色で、やや光沢があり、殻表は平滑。外唇は肥厚・反転しない。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（東北南部以南）、四国、九州、南西諸島（検討が必要とされる）

【都における生息環境】

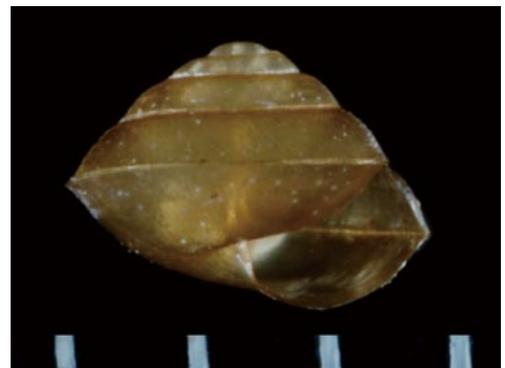
主に人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.



(執筆: 黒住耐二)

マサトヨキビ

Trochochlamys sp. 1

マイマイ目

ベッコウマイマイ科



【形態・生態】

殻高 2.4mm、殻径とも 3.3mm 程度の円錐形、殻は薄質。螺塔はやや高く、各層は少し膨らむが、縫合は浅い。螺層数が多い。体層周縁に弱いが、明瞭で竜骨化した角を持つ。臍孔は極めて小さい。明褐色で、殻表はほぼ平滑で、弱い光沢がある。体層底面は膨らむ。オキノクニキビに類似するとされる。人為的かく乱の少ない樹林の倒木下などに生息する。

【分布の概要】

本州（東京）

【都における生息環境】

南多摩の山地の一部のみで記録されており、樹林の倒木下などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

村岡健作, 1972; 岡本正豊, 1974.



(執筆: 黒住耐二)

ニッパラキビ

Trochochlamys sp. 2

マイマイ目
ベッコウマイマイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
□	□	—	NT	NT	

【形態・生態】

殻高・殻径とも4mm程度の円錐形、殻は薄質。螺塔は高く、各層のふくらみは弱く、縫合はやや浅い。螺層数が多い。体層周縁に弱く、鈍い角を持つ。臍孔は僅かに開く。淡黄褐色で、殻表には極めて密で明瞭な成長肋を持つが平滑に見える。外唇は肥厚、反転しない。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東北部）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 高橋茂, 1984.



(執筆: 黒住耐二)

ビロードマイマイ(トウカイビロードマイマイ)

Nipponochloritis oscitans

マイマイ目
ナンバンマイマイ科
(ニッポンマイマイ科)

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
DD	—	—	—	DD	DD

【形態・生態】

殻高13mm、殻径18mm程度の扁平な球形、殻は著しく薄質。殻表に粗い毛状突起を持つ。栗褐色。螺塔はやや高まり、体層は大きく、殻口縁は肥厚・反転しない。生殖器の鞭状器はほとんど突出しないか短い。人為的かく乱の少ない樹林の倒木下などに生息する。

【分布の概要】

本州（東北から中部）

【都における生息環境】

人為的かく乱の少ない樹林の倒木下などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

Sorita, E., 1986b; 東正雄, 1995.



(執筆: 黒住耐二)

カントウビロードマイマイ

Nipponochloritis pumila kantoensis

マイマイ目
ナンバンマイマイ科
(ニッポンマイマイ科)

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
—	—	DD	DD	DD	NT

【形態・生態】

殻高14mm、殻径19mm程度の扁平な球形、殻は著しく薄質。殻表に密な毛状突起を持つ。濃褐色。螺塔はほぼ平巻で、体層は大きく、殻口縁は肥厚・反転しない。生殖器の鞭状器が長い。人為的かく乱の少ない樹林の倒木下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東西部）

【都における生息環境】

人為的かく乱の少ない樹林の倒木下などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。最近の研究では、キヌビロードマイマイと亜種として区別できないとの見解もある。

【関連文献】

Sorita, E., 1986a; 東正雄, 1995.



(執筆: 黒住耐二)

ヤセアナナシマイマイ

Satsuma fausta

マイマイ目
ナンバンマイマイ科
(ニッポンマイマイ科)



【形態・生態】

殻高 13mm、殻径 14mm 程度の円錐形、殻はやや薄質。螺塔は高く、側面観は僅かに外側にカーブし、各層はやや膨らみ、縫合はくぼむ。体層周縁は丸く、通常、細い白帯がある。殻色は濃い栗色で、強い光沢がある。臍孔は狭く開き、軸唇に覆われる。殻口外唇は反転し、中央部にくびれを持つことが多い。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州 (東京から静岡)

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



オモイガケナマイマイ

Aegista inexpectata

マイマイ目
オナジマイマイ科



【形態・生態】

殻高 3.5mm、殻径 11mm 程度の円盤型、殻は薄質。螺層部はほぼ平巻で、縫合はほとんどくぼまない。周縁部に極めて強い突出した竜骨状の角を持つ。ほとんど毛状付属物を持たず、淡い栗色で、やや光沢がある。臍孔は広く開く。外唇の肥厚は弱い。石灰岩地の樹林に生息する。

【分布の概要】

本州 (群馬から愛知)

【都における生息環境】

人為的かく乱の少ない石灰岩地の落葉樹林の礫地や礫間に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境および石灰岩地の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



コケラマイマイ

Aegista mikuriyensis

マイマイ目
オナジマイマイ科



【形態・生態】

殻高 7mm、殻径 11mm 程度のソロバン玉形、殻はやや薄質。体層周縁は丸く、角を持たない。臍穴は広く開く。暗褐色で、殻表はごく細かい鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外唇は肥厚、反転する。生殖器の恋矢囊が退化していることと、鞭状器が単純なことが特徴である。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州 (関東西部から中部東部)

【都における生息環境】

人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

反田栄一, 1978; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



カドコオオベソマイマイ

Aegista proba goniosoma

マイマイ目
オナジマイマイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
□	□	NT	NT	NT	NT

【形態・生態】

殻高 7mm、殻径 11mm 程度のソロバン玉形、殻はやや薄質。体層周縁は弱い角を持つために、やや尖る。臍穴は広く開く。暗褐色で、殻表はごく細かい鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外唇は肥厚、反転する。生殖器の鞭状器はふと短く、その胴部でも明瞭な蛇腹状のくびれを持つ。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東から中部東部とされるが今後の検討が必要である）

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

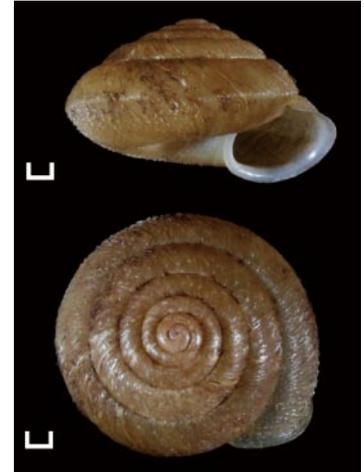
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

反田栄一, 1978; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



トウキョウコオオベソマイマイ

Aegista tokyoensis

マイマイ目
オナジマイマイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
NT	—	□	□	NT	NT

【形態・生態】

殻高 6mm、殻径 9mm 程度のソロバン玉形、殻はやや薄質。螺塔はやや高い。体層周縁の角は弱く、体層は全体として円みを帯びる。臍穴は広く開く。暗褐色で、殻表はごく細かい鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外唇は肥厚、反転する。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（関東南部から中部）

【都における生息環境】

人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



コオオベソマイマイ類の一種

Aegista sp.

マイマイ目
オナジマイマイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
NT	—	—	—	NT	

【形態・生態】

殻高 5.5mm、殻径 10mm 程度の極めて低い円錐形で、このグループとしては螺塔が高く、殻はやや薄質。体層周縁に弱い角を持つ。臍穴は広く開く。暗褐色で、殻表はやや粗な鱗片状突起を持つ殻皮で被われる。外唇の肥厚はやや弱く、反転する。生殖器の鞭状器は棍棒状で、先端のみによじれが認められ、鋸歯状のくびれを有する。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州（確実なのは東京の平地のみ）

【都における生息環境】

人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化などが減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

上島励ら, 2000.

(執筆: 黒住耐二)



ミヤマヒダリマキマイマイ(タカヤマヒダリマキマイマイ)

Euhadra scaevola scaevola

マイマイ目
オナジマイマイ科



【形態・生態】

殻高 18mm、殻径 30mm 程度のソロバン玉形、螺塔は低く、巻数は多く、側面観は直線的で、螺層は少し膨らむ。縫合は浅くくぼむ。殻表には比較的密で規則的な成長肋が明らか。栗色で、通常、周縁と臍孔の色帯が濃く、明らか。やや強い光沢がある。体層の周縁角は明らかだが、竜骨状とはならない。臍孔はやや広く開く。殻口はやや弱く肥厚・反転する。人為的かく乱の少ない樹林の落葉下などに生息する。

【分布の概要】

本州(関東から中部)

【都における生息環境】

主に人為的かく乱の少ない落葉樹林の林床の倒木や落葉下に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の保全が望ましい。開発などによる林床の乾燥化が減少の原因と考えられ、工事・伐採に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

黒田徳米, 1963; 東正雄, 1995.

(執筆: 黒住耐二)



カタマメマイマイ

Lepidopisum verrucosum

マイマイ目
オナジマイマイ科



【形態・生態】

殻高 6mm、殻径 7mm 程度の円錐形、螺塔は高く、巻数は多く、側面観はやや膨らみ、螺層も少し丸い。縫合はやや深い。殻皮は淡褐色。殻皮には疎な鱗状突起を持つ。体層は大きく、特に底部は良く膨らみ、周縁には角を持たず、円い。臍孔は小さく、深い。殻口は弱く肥厚・反転する。海岸や河川敷などに生息する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生息環境】

主に海岸や河川敷の草地などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

海岸部や河川敷などの草地環境の保全が望ましい。工事などに際しては十分な配慮が必要である。ただし、本種は放浪種的な性質があると考えられ、情報収集も必要である。

【関連文献】

東正雄, 1995; 黒住耐二, 2003.

(執筆: 黒住耐二)



タガイ

Anodonta japonica

イシガイ目
イシガイ科



【形態・生態】

殻長 9cm、殻高 5.8cm、殻幅 3.5cm 程度の長卵形、中型、殻はやや薄質。殻頂は前方に寄り、あまり殻縁から突出しない。殻表に彫刻はなく、緑色系-黒色系の殻皮を被る。内面にかみ合わせの歯はない。一時、本種(B型)とヌマガイはドブガイとしてまとめられていたが、近年の研究で遺伝的な関係や繁殖期などから別種であることが再確認された。ただ、両種の共存域では、殻高などの形質置換により識別がしやすいが、単独生息域では殻形態だけからの分類は困難であるとされる。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

主に平地の池沼や小河川の砂礫底・泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。水質汚染や生息環境の消失が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。また幼生が付着する魚類の生存も不可欠である。

【関連文献】

増田修・内山りゅう, 2004; 近藤高貴, 2010.

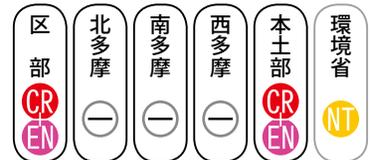
(執筆: 黒住耐二)



カラスガイ ※備考 (p.625)

Cristaria plicata

イシガイ目
イシガイ科



【形態・生態】

殻長 25cm、殻高 12cm、殻幅 8cm 程度の亜菱形、殻はやや薄質。殻頂は前方に寄り、殻縁からわずかに突出する。殻皮は成貝では黒褐色で、幼貝では緑褐色。殻表は成長肋を持つ他は、平滑。殻頂下に側歯を持つことで、ドブガイ類と簡単に識別できる。湖や池沼に生息する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生息環境】

主に平地の湖沼の止水域の砂泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。水質汚染や生息環境の消失が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。また幼生が付着する魚類の生存も不可欠である。

【関連文献】

増田修・内山りゅう, 2004; 近藤高貴, 2010.

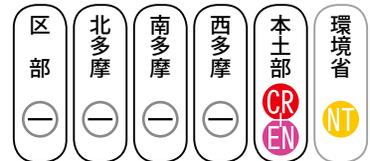
(執筆: 黒住耐二)



ヨコハマシジラガイ

Inversiunio jokohamensis

イシガイ目
イシガイ科



【形態・生態】

殻長 5.8cm、殻高 3.6cm、殻幅 2cm 程度の卵形、大型、殻は厚質で堅固。殻頂は前方に寄り、浸食され、殻縁から突出しない。後縁は通常伸びる。殻皮は黒褐色で、殻表の分岐した彫刻は弱く、通常、後背縁では不明瞭。グロキディウム幼生は腹側頂部に棘状突起を持つ有鉤型。マツカサガイと同所的に生息することもある。小河川や用水路などに生息する。

【分布の概要】

北海道(南部)、本州(近畿以北)

【都における生息環境】

主に緩やかな流れのある河川や用水路の流水域の砂底・砂礫底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。水質汚染や生息環境の消失が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。また幼生が付着する魚類の生存も不可欠である。

【関連文献】

増田修・内山りゅう, 2004; 近藤高貴, 2010.

(執筆: 黒住耐二)



マツカサガイ

Pronodularia japonensis

イシガイ目
イシガイ科



【形態・生態】

殻長 44mm、殻高 28mm、殻幅 14mm 程度の卵形、中形、殻は厚質で堅固。殻頂は前方に寄り、浸食され、殻縁から突出しない。殻皮は黒褐色で、殻表に「松毬」のような分岐した彫刻を有する。この彫刻は、通常殻全面に明瞭で、後背縁に及ぶ。グロキディウム幼生は腹側頂部に棘状突起を持たない無鉤型。小河川や用水路などに生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

主に緩やかな流れのある河川や用水路の流水域の砂底・砂礫底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。水質汚染や生息環境の消失が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。また幼生が付着する魚類の生存も不可欠である。

【関連文献】

増田修・内山りゅう, 2004; 近藤高貴, 2010.

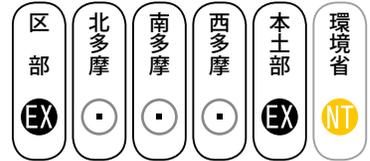
(執筆: 黒住耐二)



ウネナシトマヤガイ

Trapezium liratum

ハマグリ目
フナガタガイ科



【形態・生態】

殻長 36mm、殻高 33mm、殻幅 21mm 程度の垂三角形、殻はやや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を持ち、殻皮は漆黒色で、光沢がある。内湾や河口の汽水域に生息する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

河口域の礫などの硬質底に生息していたと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は東京都本土部から絶滅したが、残存している河口域の改変に際しては十分な配慮が必要である。千葉県では(国内?)移入の個体群が近年分布を拡大しており、今後の情報収集が望まれる。

【関連文献】

黒住耐二, 2003; 増田修・内山りゅう, 2004.



(執筆者: 黒住耐二)

ヤマトシジミ

Corbicula japonica

ハマグリ目
シジミ科



【形態・生態】

殻長 36mm、殻高 33mm、殻幅 21mm 程度の垂三角形、殻はやや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を持ち、殻皮は漆黒色で、光沢がある。河口の汽水域に生息する。河口や淡水が影響する内湾に生息する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

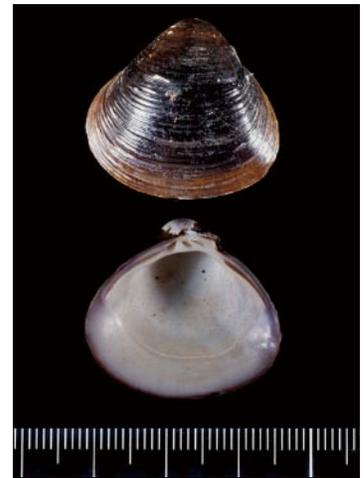
河口の汽水域の砂泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河口汽水域の保全が望ましい。埋立てや護岸建設などが減少の原因と考えられ、残存している河口汽水域の改変に際しては十分な配慮が必要である。近年都内で確認されているのは移入個体群の可能性が高く、今後の情報収集が望まれる。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

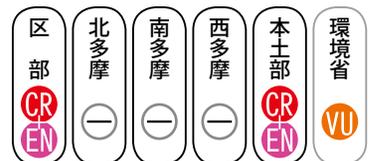


(執筆者: 黒住耐二)

マシジミ

Corbicula leana

ハマグリ目
シジミ科



【形態・生態】

殻長 30mm、殻高 25mm、殻幅 17mm 程度のやや低い垂三角形、殻はやや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を持ち、殻皮は帯緑褐色で、不明瞭な褐色斑を散らすことが多い。光沢は弱い。内面腹縁部は紫色で、他は年輪状に淡紫色に染まるものの、白色。河川や池沼に生息する。

【分布の概要】

本州、四国、九州。国内移入種として奄美大島に分布することが知られている。

【都における生息環境】

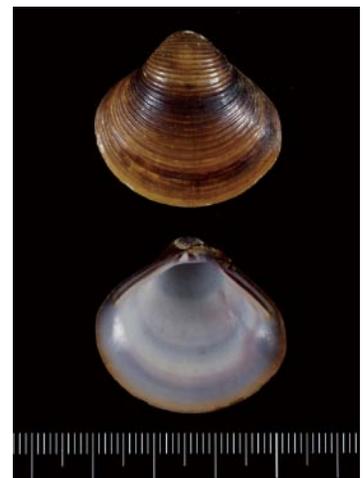
主に平地の淡水域の砂礫底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水域環境の保全が望ましい。水質汚染や生息環境の消失が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。現在では競合する外来種のタイワンシジミが広い地域に分布を拡大しており、両種の状況に際して情報収集が望まれる。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

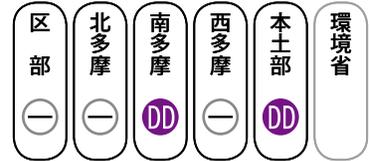


(執筆者: 黒住耐二)

マメシジミ類の一種

Pisidium sp.

ハマグリ目
マメシジミ科



【形態・生態】

殻長 3mm、殻高 2.2mm、殻幅 1.7mm 程度の卵三角形、殻は薄質。殻頂は後方に寄り、殻縁から突出する。殻は半透明黄白色だが、殻表に付着物を持つ場合が多い。殻表は弱い成長肋を持つ他は、平滑。主に湧水などの砂礫底に生息する。淡水産。本属の種の分類は未だ未確定なところが多く、今回の同定も確実ではない。しかし、本属の種は、関東地方の平地では分断された分布をしている。

【分布の概要】

分類が不確定なので不明

【都における生息環境】

主に台地下の湧水起源の自然の残っている細流の砂泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湧水を保つ樹林および水域環境の保全が望ましい。水源確保や水質汚染、生息環境の消失が減少の原因と考えられ、工事などに際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重, 1973; 増田修・内山りゅう, 2004.

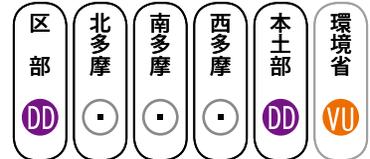
(執筆: 黒住耐二)



ハナグモリガイ

Glaucanome chinensis

ハマグリ目
ハナモグリガイ科



【形態・生態】

殻長 20mm、殻高 12mm、殻幅 9mm 程度の亜方形、殻は薄質、腹縁は直線的で中央はわずかに窪む。殻頂はやや前方に寄り、突出する。殻表には細かい成長肋を持ち、やや粗面。緑黄褐色の殻皮があり、光沢はない。内湾奥の泥質干潟に生息する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生息環境】

河口から内湾の潮間帯泥底に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

干潟環境の保全が望ましい。埋立てや陸域からの汚染物質の干潟への流入などで個体数が減少する可能性が高く、残存している干潟環境の改変に際しては十分な配慮が必要である。

【関連文献】

波部忠重・小菅貞男, 1967; 黒住耐二, 2003.

(執筆: 黒住耐二)



【種名・学名などの準拠文献】

目名は、文部省・日本動物学会(編), 1988. 学術用語集 動物学編(増訂版). 丸善. に準拠した。

和名、学名、配列は、基本的に以下に準拠し、一部の種に際しては評価者の見解に従った。

環境省報道発表資料 平成 19 年 8 月 3 日 哺乳類・汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>

【備考】

和名	備考
オオギセル	区部において目黒区内の人家で確認されたことがあるが、移入と考えられるため、評価対象から除外した。
カラスガイ	区部において皇居で確認されている個体群は移入と考えられているため、評価対象から除外した。

【留意種とした理由】

和名	地域区分	留意種とした理由
カワグチツボ	区部	内湾潮下帯泥底の環境を指標するため。
	本土部	
ウミゴマツボ (エドガワミズゴマツボ)	区部	内湾泥底の指標種である。東京都の個体群は本種の模式産地である千葉県市川市とも隣接し連続した海域に生息するものである。本種には、分類学的な検討の未了な近縁種の存在も知られており、模式産地の個体群は貴重であると考えられるため。
	本土部	
コウフオカモノアラガイ	北多摩	河川敷というかく乱程度の大きな水辺の環境を指標するため。
	南多摩	
	本土部	
ナガオカモノアラガイ	北多摩	汚染の少ない水際の環境を指標するため。
	南多摩	
	西多摩	
スナガイ	南多摩	草原的な環境を指標するため。ただし、国内移入の場合もあるため、今後の動態を見る必要がある。
	本土部	
ヤマトシジミ	区部	河口汽水域の指標種であるため。ただし、移入群も多いと考えられるので、今後の動態を見る必要がある。
	本土部	

【関連文献】

- 東正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑. 増補改訂版. 保育社. 343 pp.
- 波部忠重・小菅貞男, 1967. 標準原色図鑑全集 3. 貝. 保育社. 223 pp.
- 波部忠重, 1973. 軟体動物. 川村多實二原著・上野益三(編). 日本淡水生物学, pp. 309-341. 北隆館.
- Habe, T., 1976. New land and freshwater snails (Mollusca) from Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, Series A*, 2(4): 225-228.
- 波部忠重, 1984. スエーデンの Vega 号の探検で採集された日本産陸産淡水産貝類. *Venus*, 43(4): 305-313.
- 平瀬一郎, 1908a. 日本陸産貝類図説 (13). 介類雑誌, 2(7): 11-16, 37-38.
- 平瀬一郎, 1908b. 日本陸産貝類図説 (15). 介類雑誌, 2(9): 8-12, 51-52.
- 環境省自然保護局野生生物課(編), 2010. 改訂レッドリスト付属説明資料. 環境省自然保護局野生生物課. 64 pp.
- 狩野泰則・後藤好正, 1996. 横浜市陸産貝類. 神奈川自然保全研究会報告書, (14): 43-106.
- 近藤高貴, 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号. 69 pp.
- 黒田徳米, 1963. 日本非海産貝類目録. 日本貝類学会. 71 pp.
- 黒田徳米・波部忠重, 1965. ナタネキバサナギガイ. 岡田要(編). 新日本動物図鑑 [中], pp. 193. 北隆館.
- 黒住耐二, 1995. ウミナ. (社)日本水産資源保護協会. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 II 巻, pp. 73-78, 124.
- 黒住耐二, 2003. 多摩川水系の貝類から見た自然環境の現状把握と保全に関する研究. (財)とうきゅう環境浄化財団 研究助成・学術研究, 31(226): 1-242.
- 桑原康裕・片倉晴雄・久万田敏夫・芥川浩典, 1997. アポイ岳および周辺地域の陸産貝類相. ちりぼたん, 27(2): 49-54.
- 増田修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ. 240 pp.
- 湊宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus, Supplement*, 2: 1-212.
- 村岡健作, 1972. 貝類標本総合目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録 3. 222 pp.
- 岡本正豊, 1974. 東京都高尾山のオキノクニキビガイ. やまきさご, (15): 1-7.
- 岡本正豊, 1995. クロヘナタリ. (社)日本水産資源保護協会. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 II 巻, pp. 79-82, 124-125.
- 反田栄一, 1978. 関東南西部のコケラマイマイとカドコオオベソマイマイの生殖器について. *Venus*, 36(4): 181-190.
- Sorita, E., 1986a. Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe, 1955 from mainly Kanto district, Honshu, Japan-I. A new subspecies of *Nipponochloritis pumila* (Gude, 1902) and a new subspecies of *N. bracteatus* (Pilsbry, 1902). *Venus*, 45(2): 99-108.
- Sorita, E., 1986b. Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe, 1955 from mainly Kanto district, Honshu, Japan-III. On *N. oscitans kiyosumienis* Azuma, 1982 and *N. kawanai* Sorita, 1980, with a conclusive remark. *Venus*, 45(3): 186-193.
- 高橋茂, 1984. 群馬県陸産および淡水産貝類目録. 自刊. 190 pp.
- Ueshima, R., 1995. Rediscovery of *Neosuccinea kofui* Patterson, 1971 with notes on the taxonomic position of "*Succinea*" *lyrta* Gould, 1859 and "*S.*" *horticola* Reinhardt, 1877. *Venus*, 54(3): 161-173.
- 上島励・長谷川和範・齋藤寛, 2000. 皇居の陸産および淡水産貝類. 国立科博専報, (35): 197-210.